

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

特集 第52回 相生祭 … 2～7

- 学園各部報告 … 8～11
- 同窓会だより／マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

特集

第52回相生祭

今年度の相生祭はオンラインで開催



〈統一テーマ〉
Memories 〜今だからこそ、思い出を刻め〜
〈開催期間〉
2021年12月6日(月)〜2022年1月31日(月)

*好評につき開催期間延長しました！

第52回相生祭が、2021年12月6日(月)より本学初のオンラインにて開催され、学内外の多くの方々にご覧いただくことができました。幼稚部園児から大学生までが参加した開会式MOVIEにはじまり、各部から公開された参加団体コンテンツでは、大学・短大は学科のゼミやクラブが参加し、日ごろの学生たちの活動の様子や演奏の発表、同窓会(翠葉会)で開講されている講座の作品の動画などを公開しました。また、中学部・高等部からは部活動や有志生徒による動画が、小学部からは関係者限定で対面実施した鼓笛パレードと合奏発表の動画が、そして幼稚部からは日頃の活動紹介として園児たちの写真が公開されました。毎年大人気のお笑いライブ・トークショーについても今年はオンラインで配信し、地域物産展もオンラインにて開催。12月14日(火)には学内で打ち上げ花火が上がりました。

昨年度の相生祭は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、残念ながら中止となりましたが、今年度はオンラインというかたちで2年ぶりに開催することができました。多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。



相生祭実行委員会 委員長 沖野 みなみ



こんにちは！令和3年度相生祭実行委員会委員長を務めさせていただきます。2年の沖野みなみです。

相生祭を無事開催することができ、とても嬉しいですが、

昨年相生祭が中止になってしまったことで不安を抱えながらの活動でしたが、周りの方々の協力もあり、より良いものが作れたと思っています。

また、新型コロナウイルスの影響で残念ながら対面での開催とはなりませんでしたが、無事に終えることができてホッとしております。

本当にありがとうございました！

来年度の相生祭実行委員の方々にも困難に負けず、協力して相生祭を開催して欲しいです。

来年の相生祭もぜひご覧ください、お待ちしております！

大学祭実行委員会 委員長 山田 真優



今年度の相生祭は新型コロナウイルスの影響で、2年ぶりの開催となり、また感染拡大防止のため、初めてのオンライン開催という運びとなりました。

まずは新たな形となった相生祭の開催にご協力いただきました学生の皆様、教職員の皆様、学園関係者の皆様、誠にありがとうございました。

相生祭の開催に至るまで、開催の日時や開催におけるガイドラインが変更となり、戸惑うことも多くありました。

しかし、オンライン開催に伴い、今までのように大学に足を運んで頂かなくとも、さまざまな場所から相生祭を楽しんでいたことができて、相模女子大学の良さを知っていただけたと感じております。

今年度のオンライン開催は、今まで以上に役員一同、切磋琢磨し、活動することができ、大学祭実行委員会にとっても貴重な経験になりました。

来年度もどのような情勢であるかわかりませんが、多くの皆様に楽しんでいただける相生祭にできるよう尽力いたしますのでよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

開会式MOVIE

相生祭をオンラインで開催するにあたり、開会式MOVIEを撮影しました。幼稚園園児、小学部代表児童、中学部・高等部相生祭実行委員長、大学祭実行委員長、相生祭実行委員長、風間理事長が出演し、コロナ禍の中でようやく開催する事が出来た今年度の相生祭への想いや、各部から発信している動画や作品の紹介がされたほか、今回の相生祭統一テーマとポスター入賞作品の発表が行われました。

撮影の際は、カメラの前に立つとみんな緊張した様子でしたが、一生懸命取り組み、とても素敵な動画になりました。

(総務課)



オンラインお笑いライブ・磯村勇斗さん オンライントークショー

例年とは異なり、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で対面での開催ができなかったのですが、事前収録をした映像をYouTubeで配信するオンライン開催という形で実施することができました。

また、今年度については大学生のみならず、幼稚園、小学部、中学部、高等部、教職員と視聴対象者の幅を広げることができました。

お笑いライブのゲストとして、ニューヨークさん・インポッシブルさん・ゆにばーすさん、トークショーでは磯村勇斗さんがゲストとして来られました。今を輝く方々のおかげで、相生祭を盛り上げることができて、とても良かったです。

(大学祭実行委員 林 未夢)

オンライン地域物産展を開催しました

例年、学生や教職員をはじめ地域の方からも大変ご好評をいただいている「地域物産展」を、今年度はオンラインにて実施いたしました。「オンライン地域物産展」では、日頃学生がお世話になっている地域や企業の特産品を、活動の様子と共にWEBページ上で紹介する通販サイトを用意、学生はオンライン上で地域や企業の方々と何度も打合せを重ね、工夫を凝らしたページを作成いたしました。コロナ禍にあってもこのような取り組みを通じて、地域や企業の方々との繋がりを継続することができました。

(連携教育推進課)



オンライン地域物産展へ参画した地域



本宮市の地域紹介ページ

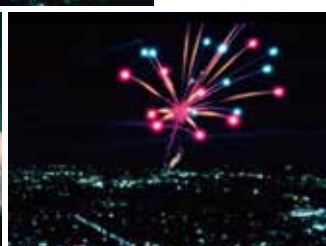
打ち上げ花火

本学の相生祭といえば、毎年11月4日にフィナーレとして上げる打ち上げ花火が恒例となっています。今年はオンラインでの開催に加えて開催時期も変更となりましたが、実行委員の学生たちの「今年はオンライン開催だけど、花火はやりたい!」という熱い思いから、打ち上げ花火の実施が決まりました。また、少しでも学外の多くの方々にも観ていただくため、ドローンで撮影した動画をオンラインにて公開しました。

(総務課)



打ち上げ花火の動画も公開!



合気道部



映画研究部



参加団体コンテンツ

大学の学科やクラブが企画・制作した参加団体コンテンツです。
学生たちの活動の様子や演奏の発表、
同窓会（翠葉会）で開講されている講座の作品展示などをオンラインで公開しました。

演劇部



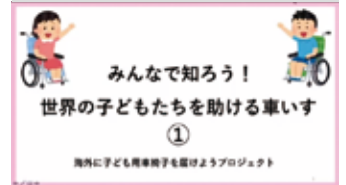
おっきリンピック宣伝部



オリエンテーリング部



「海外に子ども用車椅子を届けよう！」プロジェクト



かるた部



茶道部



写真部



ジャズ研究部



吹奏楽部



生命哲学研究部



創芸部



ダンスクラブ EASTER



能楽宝生会



美術部



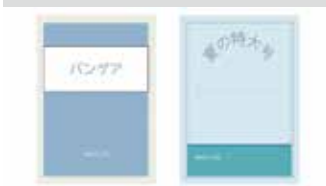
舞踏研究部



フラワーアレンジメントクラブ



漫画文芸部



マンドリンクラブ



チアリーディング部 GRAMPUS



TFT- サガジヨ



大学祭実行委員会



英語文化コミュニケーション学科 上條ゼミ



英語文化コミュニケーション学科 小泉ゼミ



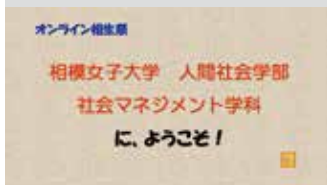
子ども教育学科



生活デザイン学科



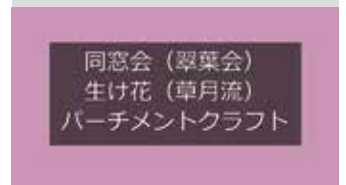
社会マネジメント学科



食物栄養学科



同窓会（翠葉会）



〈中学部・高等部〉

雲外に蒼天あり

相生祭運営委員長 高等部2年 池田 天奏

オンライン相生祭はいかがでしたか？

開催するにあたって、それぞれの団体が短い期間で一生涯懸命準備を重ねてきました。本当に素晴らしい動画や企画が完成したと思います！

開催までの1年間は、苦難の連続でした。

対面開催から一転、急遽オンライン開催と聞いた時には副委員長と共に校長先生の元に直談判にも行きました。しかし、オンラインのみの開催が決まり、半年間かけて準備してきたものが全て中止となってしまふなど、幾度となく壁に直面してきました。しかし、その度に百折不撓の精神で相生祭運営委員一同奮励努力してきました。

急な呼びかけにも関わらず様々な団体が動画作成に参加してくれましたが、オンライン開催に伴い、参加は任意となりました。相生祭運営委員会では、より多くの人に相生祭を楽しんでもらいたいと考えて話し合った結果、中学部・高等部全員参加のモザイクアート制作を企画しました。

完成した作品を笑顔で「すごいね！」と見ている生徒や「相生祭良かった！」という声を聞き、委員長として今まで頑張ってきた良かったと、達成感と喜びを感じることができました。

相生祭が皆様の「明日への活力」となったのなら嬉しいですね。

ご覧いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



みなさんの協力のもと無事完成



シールをペタペタ

〈中学部・高等部〉

先生も巻き込んで一緒に盛り上げる！
中学部・高等部相生祭オープニング動画

相生祭運営委員 高等部2年 石川 優子

私は相生祭運営委員として主にオープニング動画作成に携わっていました。オンライン開催となつてしまった相生祭。前年度とは違い、出し物の準備が各クラスで進んでいただけあって、今年こそはと楽しみにしていた生徒達の落胆の声は非常に大きかったです。そこで、オンライン開催であっても在校生に少しでも相生祭を楽しんでもらいたいと考案されたのがこのオープニング動画企画でした。

「在校生に楽しんでもらうなら先生方に出演して頂く他ない」「先生方に演技して頂く」と案はトントン拍子で決まりましたが、いざ出演者を募ろうとなつた時には先生方に動画に出演して頂けるのかとても不安でした。しかし、その不安を裏切り約30名の先生方に出演して頂きました。学校説明会や定期考査などで忙しい時期にもかかわらず、ご協力して頂いた先生方には頭が上がりません。また、他の作業の合間を縫ってオープニング動画を一緒に作ってくれた運営委員の皆さんにも本当に感謝しています。協力者の皆様のお陰で出来上がったコミカルで壮大なオープニング動画で少しでも相生祭が盛り上げられたいなら幸いです。

来年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大が収束し、対面での相生祭開催ができることを願ってやみません。



動画のフィナーレ



動画的一幕

〈中学部・高等部〉

オンライン文化祭だからこそその試み

相生祭運営委員 高等部2年 阪井 夕喜

今年度の相生祭はもともと対面開催予定だったため、『赤ずきんちゃん』をテーマにクラスのイベントを準備していました。しかし、急遽オンライン開催となつたため、元々考えていた『赤ずきんちゃん』に「謎解き」要素を入れて、謎解きゲームの動画を制作しました。

クラスメイトと分担を決めて作成をしましたが、同じ運営委員の久保田さんが完全オリジナルで作成したシナリオや自作の登場人物の絵が入るまでは、相生祭用の動画としてはあまり想像つかないものだったので、完成までもっていくにはかなり苦労したことを覚えています。

また、いざ動画制作を始めてみると、中心となる制作陣だけでは著作権の問題や見やすいテロップ表示、シナリオの矛盾点の見直しなど、やらねばならないことをこなすことが難しくなってきました。完成ギリギリまで試行錯誤しつつも、最終確認や問題の作成などはクラスの友人も協力してくれたことで、最終的には自分たちで納得のいく動画を制作できたと思っています。

まさか相生祭がすべてオンラインでの開催となるとは想定していませんでしたが、そこにこのような形で関わることもなるとも思ってもいませんでした。しかし、動画制作はオンラインだからこそその挑戦となりとても良い経験になったと思います。



全てオリジナルで制作



〈小学部〉

見ごとなイチョウの黄葉の下で行われた学内鼓笛パレード

小学部では、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う緊急事態宣言に対応して、2学期の始業から約3週間の休校となりました。例年の相生祭では、鼓笛パレードとグランドドリル、奇数学年の劇発表、偶数学年の音楽発表が行われているのですが、オンラインで開催される相生祭にどの部門なら、発表できるかの討議を行い、2学期中にできることとして、6年生を中心とする鼓笛発表と、2、4年生の音楽発表にしほりました。奇数学年の劇発表は3学期に行うこととし、相生祭のオンライン発表に間に合わなかったことは残念でした。

9月が休校であったことは、鼓笛の中心となる6年生にとっては、かなり厳しいことでした。練習が中断されていたこと、発表が例年より1ヶ月以上後になることで、中学受験に向けて、生活面がハードになるといった面が心配されました。しかし、6年生は、熱心に取り組む、練習の遅れを少しずつ取り戻していきました。

12月の学内の鼓笛パレードは、例年と違って、見事に黄色く染まったイチョウ並木の下で行われ、今年ならではの美しさが加えられました。がんばった6年生へのご褒美だったと思います。



イチョウ並木をバックにグランドドリルスタート



下級生の先頭に立って頑張る6年生

〈小学部〉

児童の創作をいかした合奏発表

2、4年生の音楽発表は、例年の相生祭の学年による合唱発表から、各クラス単位の合奏発表に変更されました。

2年生は、国語で学習した物語「スイミー」を紹介しながら、場面ごとに、スイミーの気持ちを楽器を使って表現しました。どんな楽器を使って、どんな演奏を行うかを、相談し、音を重ねることで、楽しさ、嬉しさ、怖さを表現することを学びました。子どもたちは、発表を通して、音楽の楽しさに気づくことができたのではないかと思います。

4年生では、CUPSを取り入れたリズム活動の発表です。CUPSとは、机の上に用意したプラスティックのコップだけを使い、曲に併せながら、コップや机を叩いたり、クラップ（拍手）を交えて奏でるリズム遊びです。速い動きもしっかりと息を合わせて、正確にリズムを奏でる4年生の子どもたち。素晴らしいがんばりでした。

（小学部・澄井）



難しかったCUPSも楽しめるように



一音一音に思いを込めて



2年生合奏「スイミー」



チームワークを大切に頑張った4年生

〈認定こども園 幼稚園部〉

日頃の様子をご紹介します

幼稚園部では、子どもたちの「見たい」「知りたい」「やってみたい」という思いや気持ちを、様々な遊びを通して満たしています。園舎や園庭には、いつも子どもたちの元気な笑い声が溢れています。（幼稚園部・渡辺）



3歳児 たんぽぽ組



2歳児 すみれ組



0・1歳児 ひまわり・りんどう組



未就園児 もも組



5歳児 さくら組



4歳児 きく組

相生祭ポスター入賞作品

相生祭では、小学部から大学までの児童・生徒・学生に、相生祭ポスターを募集しています。今年もたくさんの方の作品の応募がありました。相生祭実行委員会で、この作品の中から入賞作品を投票にて決定しました。

(総務課)



最優秀賞

高等部 3年3組 大江 那奈さん

この度は、このような賞を授与していただき、誠にありがとうございます。

毎年中学部・高等部美術部が制作している相生祭の正門看板のデザインを今年度は私が担当しました。

そのためポスターも看板とリンクするように意識してデザインしました。例年通りに行事を行うことが厳しい情勢のなか、「Memories〜今だからこそ、思い出を刻め〜」というテーマの通り、相生祭がみなさんにとって明るい思い出になるようにという願いを作品に込めました。少しでも楽しんでいただけたら、ありがとうございます。



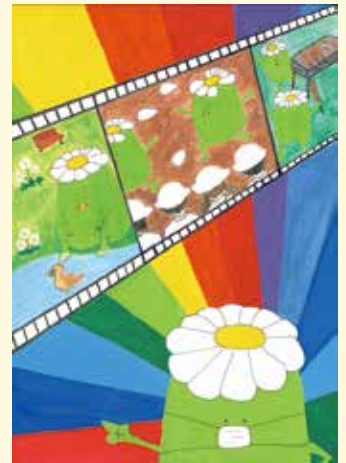
相生祭実行委員長賞
高等部3年 川村 郁美



相生祭実行委員長賞
高等部1年 江野 瑞



学長賞
中学部1年 朝重 紬



理事長賞
小学部4年 櫻井 俊太郎

他にもたくさん
素敵な作品があったがっぱ！
ありがとう！



ポスターはマーガレット本館1階にも掲示されました。



優秀賞
日本語日本文学科1年 田中 美羽



優秀賞
高等部1年 奥村 彩喜

学園各部 報告

大学院・大学・短期大学部

新宿マルイ本館でアップサイクルをテーマにした作品展示「PIECE」を開催しました

生活デザイン学科では、12月2日(木)～5日(日)の期間、新宿マルイ本館8階「concept shops」にて、廃材を利用したアップサイクル※(デザインによる衣装、映像作品、インテリア・テキスタイル雑貨やアクセサリなどの展示・販売を行いました。

今回のイベントは、織物工場で排出される生地、耳、アパレル企業のシーズンオフによる廃棄衣類、不要ファスナー、家具工場から排出される規格未達の廃材などを提供していた。1年生～3年生が皆でアイデアを出し合いデザイン・制作をした、学年を越えた取り組みです。売り上げは日本赤十字社



作品展示「PIECE」会場の様子

を通じて医療機関に全額寄付しました。

(※)本来であれば捨てられるはずの廃棄物に、デザインやアイデアなどの新たな付加価値を与えることで、モノ自体の価値を高めること。

(生活デザイン学科・牛尾)

学生主催ユメカナ★カフェ「素敵な本や仲間に出会おう!」をオンラインにて開催しました

11月26日(金)、サガジヨ盛り上げ隊プロジェクトで活動をしている学生によるユメカナ★カフェ「素敵な本や仲間に出会おう!」をオンラインにて開催しました。

素敵な本と出会うための第一歩として、今回は「前向きになれる本」をテーマに、主催学生と連携教育推進課職員がそれぞれおすすめの本を紹介しました。その後、参加学生を交えて意見交換を行い、大学生の本離れや自分と本の関わり方、SNSを活用した本の選び方などさまざまな話題で盛り上がりました。

参加学生からは、「今回紹介された本を読んでみたいと思った」「冬休みを活用して家に溜まっている本を読みたい」といった前向きな感想が寄せられました。連携教育推進課では、今後もオンラインのユメカナ★カフェ講座を開催する予定です。



ユメカナ★カフェ 広告チラシ

公益社団法人相模原市観光協会と包括連携協定を締結しました

本学と公益社団法人相模原市観光協会(代表理事・加藤明)は、相模原市の観光に関する地域振興等での連携及び協働を推進し、地域の活性化や地域人材の育成に寄与することを目的として、包括連携協定を締結いたしました。

締結に際し、12月6日(月)に本学にて調印式が行われ、締結に至るまでの経緯やこれまで取り組んできた連携事業の中から、英語文化コミュニケーション学科による大島地区観光活性化に向けたプロジェクト活動が紹介されました。

今回の締結により相互の交流・連携を強化し、それぞれが持つ人的及び知的資源を活用しながら、相模原地域の活性化に貢献してまいります。

(連携教育推進課)



左: 田畑雅英学長
右: 公益社団法人相模原市観光協会代表理事 加藤明 様

ボランティアグループ・どれみんみんが、ドイツ銀行グループ・NPO法人ライツオン・チルドレンとの協働で、災害備蓄品支援イベントを開催しました

子ども教育学科のボランティアグループ・どれみんみん(顧問: 中島健一朗准教授)が、ドイツ銀行グループ、NPO法人ライツオン・チルドレン(以下、LOC)との協働で、児童養護施設等への災害備蓄品支援のためのイベントを開催しました。

どれみんみんでは、児童養護施設の子どもたちや障害を持つ子どもたちへの

支援活動を行っていましたが、コロナ禍で以前のような活動が難しい中、SDGsの観点や、企業と福祉を繋ぐという社会貢献の形として「企業・NPO・大学(学生)の協働で福祉施設を支援する」取り組みをスタートさせました。

イベント当日

は、ドイツ銀行グループから企業の社会貢献について、LOCから社会的養護の子どもたちに必要とされる支援について発表があり、どれみんみんからは、これまでの社会貢献・地域貢献活動について発表したほか、児童養護施設等に寄贈する災害備蓄品について、参加者でパッケージ作業を行い、「防災リュック」を60個製作しました。

この「防災リュック」をはじめ災害備蓄品については、LOCと協働し、どれみんみんメンバーが、地域の児童養護施設や母子生活支援施設、子ども食堂などにお届けする予定です。

(子ども教育学科・中島)



集合写真



参加者で「防災リュック」のパッケージ作業



どれみんみんの活動発表

福島県本宮市の高松市長が 来校されました

12月8日(水)に本学と地域協働活動事業に関する協定を締結している、福島県本宮市の高松義行市長が来校され、これまでの活動の振り返りと共に、今後の連携事業の方向性と、相互の連携を一層深めることについて共有がなされました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で本宮市への訪問が叶わない中でも、学生は、オンラインを通じて現地の方々に農作物の育て方を教わりながら、学内の農園で野菜を育てる取り組みや、オンライン地域物産展で本宮市の企業や特産品を紹介するなど、創意工夫を凝らし意欲的に活動を行っています。

(連携教育推進課)

新潟県佐渡市の渡辺市長が 来校されました

12月23日(木)、本学と包括連携協定を締結し、地域づくりなどの分野で様々な連携活動を行っている新潟県佐渡市の渡辺竜五市長が来校されました。

学生は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で現地への訪問が叶わない中でも、佐渡の伝統芸能「文弥人形」をオンラインから鑑賞し伝統芸能を学んだり、本学ホームページ上で地域の特産品を紹介する通販サイト「オンライン地域物産展」で佐渡市の特産品を紹介するなど、創意工夫を凝らしながら意欲的に活動を行っており、これまでの活動の振り返りと共に、今後の連携事業の方向性と、相互の連携を一層深めることについて共有がなされました。

(連携教育推進課)

中学部・高等部

修学旅行を経験して

私は修学旅行を経験して考えた事が2つあります。

1つ目は仲間との協力の重要性です。私達はまず大きな問題とぶつかります。

それは班決めです。クラス全員が納得のいく班にすることはとても難しいですが、一人一人が協力して譲り合いクラス全員が納得のいく班決めができました。

2つ目は北海道という普段行く事ができない土地と、私達が住んでいる神奈川県との相違点です。11月上旬に積雪があったり、道路の幅が広く坂が少ない点。同じ国なのに相違点がたくさんあってとても面白いです。慣れない土地の中でも柔軟に対応することが、今後の人生にも活かしていくのだと考えました。

コロナ禍で奇跡的に修学旅行に行けずとも幸せに思います。保護者の方々、先生方、旅行会社の方々、私達の為にたくさんご尽力下さりありがとうございます。

この経験を活かして大学受験や就職活動、今後の人生に活かしていきたいと思っています。

(高等部2年・鱸真詩路)



慣れてきた地上10m



初めてのジンギスカン

3度目の全国大会は冬のJr.ウインター カップ 2021-22

中学部バスケットボール部は2022年1月4日(火)から開催された全国U15バスケットボール選手権大会(Jr.ウインターカップ)に出場しました。

2021年8月の関東大会では全国大会出場を決める試合で敗戦し、あと一步というところで全国大会に出場できませんでしたが。チームはその敗戦をバネにして、選手個人の力を上げ、そして総合力を高める取り組みを行った結果、県予選を優勝し全国大会の切符を掴みました。全国大会では1・2回戦を快勝し、1月6日(木)に行われた3回戦で岡山県のクラブチームSEA DRAGONと戦い、56-48で勝利しベスト8。同日の準々決勝で愛知県県のクラブチームJ'sphereとの試合に臨みました。試合は接戦でした。残り7.2秒、45-46と1点負けている状態でシュートを決めたのですが惜しくも「トラベリング」の判定でノーカウント。際どい判定でしたが残念ながらベスト4に入ることができませんでした。

敗戦はしましたが3度目の全国大会ベスト8。チームの勝利と全選手の成長の両方に取り組み



準々決勝「タイムアウト」



準々決勝「トスアップ」

だ成果として胸を張りたいと思います。そして夢は新チームが繋ぎます。

(中学部・田島)

中学部書き初め

1月12日(水)、中学部生徒全員参加の「書き初め」が行われました。

年の初めに中学部学校行事として「書き初め」を行うのは、47回を数えます。昨年からは新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から各教室での実施に変更になりましたが、それぞれ縦70cm横17.5cmの画仙紙に学年の課題を書き上げました。12月から国語や表現の授業で練習を重ねましたが、時間は30分、清書用紙はわずか2枚、お手本は見ずに仕上げなくてはなりません。書き上げた2枚の作品のうち、自分で良い方の一つを選びました。

緊張と静寂の中、一人一人が集中して一気に仕上げるこの「書き初め」は、気持ち新たに1年のスタートの目標をしっかりと持つてほしいという願いがあります。そして、日本の伝統文化に触れることのできる貴重な時間です。ここで選ばれた受賞作品は表装をし、後日展示されます。

(中学部・清水)



作品の披露



集中して、本番開始です

小学部

宿泊行事に初挑戦2年ぶりの「スキー学校」(5年生)

2泊3日で小海リエックス・スキーバレーで行われた5年生のスキー学校。5年生にとって実は初めての宿泊を伴った校外学習となりました。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、4年生の時は2つの校外学習が中止。5年生の臨海学校も中止となっていたからです。

今回は感染対策がとれる場所を検討し、初めてのスキー場とホテル、そして、2泊3日に短縮されたスキー学校でした。従来のような成果を上げることができ、初めての校外学習で5年生に負担が大きくなることはないかなど不安要素がありました。生活面でも、スキー技術の面でも十分な成果を上げることができました。最終日は、全員がリフトを使ってスキーを楽しむことができ、子どもたちの笑顔は満足感に満ちあふれていました。また、子どもたちの生



最高のお天気、スキーも最高



夜のミーティングでスキーについて振り返ることも大切

活態度もしっかりとっていました。来年度、6年生として十分に活躍できるのではと、感じさせてくれる、とても頼もしい姿だったと思います。

英語を使ったコミュニケーションを楽しむ
TOKYO GLOBAL GATEWAY「イングリッシュツアー」(4年生)

4年生も新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、従来の福島British HillsでのEnglish Campを取りやめ、日帰りで英語を楽しむ学習施設TOKYO GLOBAL GATEWAYでの日帰り「イングリッシュツアー」を実施することになりました。

1月9日(日)に行われたイングリッシュツアー。前日の雪の影響で朝から道路状況が混乱する中、バスでの出発となりました。しかしながら、途中から順調に道路状況が回復し、無事、到着することができました。

子どもたちは、少人数のチームに分かれて、ネイティブのエージェントの指導を受けて、アクティビティを体験しました。トラベルゾーンには「ファーマシー」「ファストフード」「トラベルエージェンシー」があり、ロールプレイを通して注目の仕方



ホテルの食事はいつもデザートつき



ネイティブとのコミュニケーションを楽しむ

などを学びました。また、アクティビティマージョンエリアでは、ビデオを利用したコマ撮り作品制作やダンスパフォーマンス、風呂敷を使った日本のおもてなし文化体験などを英語で楽しみました。活動を通して、外国の方と英語を使ってコミュニケーションを楽しむ気持ちや、学んだ英会話を活用しようという気持ちが生えたと感じています。



英語で買い物をする4年生児童

小学部の新しい行事
「English Performance Festival」

小学部では、従来の「English Speech Contest」が個人の力量によって発表者が限定されてしまっていたことを反省し、今年度から子どもたちが英語を楽しむ日「English Performance Festival」に変更しました。

12月20日(月)に相模女子大学グリーンホールで開催。グループ発表や集団での発表場面を多くしました。また、児童のイングリッシュ・リーダーたちが大活躍。司会進行を行ったり、英語による



4年生による都道府県紹介

ゲーム、クイズの企画を盛り込んだりしたのも大きな変化でした。児童が英語に親しみ、楽しく有意義な時間に生まれ変わったと思います。今後も、教員と子どもたちでアイデアを出し合いながら、より充実したフェスティバルにしていきたいと思っています。

(小学部・澄井)



スキッドを発表する2年生



司会進行をするイングリッシュ・リーダー



英語でビンゴゲーム

認定こども園 幼稚園部

今年もサンタさんが来たよ！幼稚園部のクリスマス会

12月中旬、待ちに待った幼稚園部のクリスマス会が行われました。今年も新型コロナウイルス感染症対策に伴い、乳児・年少組は保育室、年中・年長組はホールで行い、サンタさんが登場する前から子どもたちはドキドキ・ソワソワしている様子でした。

乳児クラスでは、鈴の音が聞こえた後、お部屋に現れたサンタさんに「わあ〜！」と喜ぶ子ども、保育者の抱っこを求める子どもなど様々でしたが、一人一人サンタさんのところへ行き、プレゼントを貰うことができました。

幼児クラスではサンタさんへの質問をするコーナーで「サンタさんの好きな食べ物は何？」「どこから来たの？」といった質問する子どもや「どうしてサンタさんは子どもへのプレゼントはあるのに、大人へはプレゼントはないの？」という質問をする子どもも見られました。

サンタさんからプレゼントを受け取る子どもたち。嬉しそうにほほ笑んだり、受け取った後に「ありがとう」「Thank you」とお礼の言葉を返したりする姿が見られました。

次年度も子どもたちの思いに残るような素敵なクリスマス会にしていきたいと考えております。

(幼稚園部・石田)



サンタさんが来てくれました!!



サンタさんからのプレゼントにドキドキ

賑やかな給食サンプルケース

給食室の職員が、仕上がった給食をサンプルケースに陳列しに行くとき、いつも子供たちが、元氣いっぱい側に駆け寄って来ます。

「これって、本物?」「本物だよ。匂いを嗅いでごらん」「いい匂いがする」「私、コレ食べたことある!」「どんな味がした?」「ちよつと、酸っぱかったかなあ」「この野菜、(園の)畑で育てた野菜だよ」「当たり前!よくわかったね」「給食提供前のこの時間、ケースの前では、様々な会話が弾み、一気に賑やかになります。

また、クリスマス仕様には職員がケース内を飾り付けしている時は、大勢の子どもたちがケース前に集まり、園でのクリスマス会当日の献立内容を職員に質問してきいたり、子どもたち同士でサンタさんにどの様なプレゼントをお願いするのかなど、話していました。給食サンプルケースを通じて、子どもたちが様々な情報を得、共有し、共に行事を楽しむにしている様子が多く見られました。

(幼稚園部・高田)



ケース&ボードを活用した食育



クリスマスに装飾したケース内

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



125th since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



相模女子大学の歴史は、1900年に西澤之助により日本女学校が設立されたことに始まります。それ以降、建学の精神「高潔善美～固きところをもって、やさしき行いをせよ～」のもと、我が国の女子教育のパイオニアとして多くの人材を社会に送り出してきました。

110周年時には、大学は「見つめる人になる。見つける人になる。」を教育スローガンに掲げましたが、「Sagami Vision 2020」の提示に合わせて学園全体の教育スローガンとなりました。

このスローガンに込められた思いは、自分たちの生活の足場をしっかりと「見つめ」、そこから新しい社会のあり方を「見つける」人を育てるというものです。建学の精神にいう高い人間性を希求する教養教育を現代的に表現しております。



やりたいことを明確にして覚悟を持って

川村始子 茨城県立高等学校 校長

(昭和 61 年学芸学部国文学科卒)



母校の周年行事で挨拶をする筆者

●大学を卒業してから

昭和61年、大学を卒業後、茨城県の高校教諭として3校に勤務しました。モットーは「生徒に学ぶ」。同僚にも助けられながら自分の授業や指導の拙さを改善する日々でした。

●中学校勤務、教育行政の経験

教頭として中学校へ、そして高校の教頭経験後、県の教育研修センターで小中高特の先生方の研修や研究総括として、その後県教育委員会にも勤務しました。様々な勤務機会を頂き、それが全て自分の財産となっています。それは仕事内容だけでなく、人としてのあり方、課題への向き合い方もです。「無駄なことは何一つない」を実感しました。

●校長として

現在、母校の校長を経て校長3校目。コロナ禍と学習指導要領改訂があり、判断を迫られる場面も多いですが「主役は生徒」、生徒の学びを支え、教職員にやりがいを感じてもらうため、そして自校の教育課題解決のために、微力ながら頑張っています。

●学生時代に教えて頂いたこと

在学中、書道選択だったので、その仲間や先生方には大変お世話になり御心配もお掛けしました。そのような中でも、作品を見る時には自分の視点を明確にすること、実物を見て自分の感じ方を大切にすることを教えて頂きました。それは今でも心がけていることです。もちろん国語教諭として文学の面白さ、奥深さを生徒達に伝える努力もしています。

●学園に在籍されている皆さんへ

まだ皆さんは、何者にもなっていません。そして、これからの意識の持ち方で、およそ何者にもなれると考えます。そのためには自分の「やりたいこと」をイメージして、できる限り明確にし、覚悟を持って進む事が大切です。懸命にやっていると様々な事が見えて来るのでそこでまた考える、その繰り返しです。卒業後、自己を意識して「見つめ」た人とそうでない人の差は、長い人生の中で意外なほど大きくなります。今後皆さんが自分らしく輝くことを祈っております。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和 3 年 3 月末現在	令和 3 年 12 月末現在
マーガレット募金額	51,798,395 円	57,513,330 円

マーガレット募金

募金内容

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

お申込方法 (個人の場合)

- ① お振込 (郵便局または銀行窓口)
 - ② 郵送 (現金書留) またはご持参
 - ③ 自動振替での継続
- 詳細につきましては、大学ホームページ(<https://www.sagami-wu.ac.jp/>)をご覧ください。下記事務局までお問い合わせください。
- マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
- その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 **相模女子大学**